

「発見!お宝プロジェクト」の活動から地域の再発見

～「もの」「こと」「ひと」を検証し、地域の資源として活用しよう～

邑南町公民館連絡協議会

1 邑南町公民館連絡協議会の現状

邑南町は、平成16年10月1日石見町・瑞穂町・羽須美村の3町村の合併により誕生した島根県の東西のほぼ中央に位置する広島県境の町である。

現在町内には、昭和の大合併以前の旧村単位に公設公営の12公民館が設置され、それぞれの地域課題の解決に向けた活動が展開されている。しかし、合併以前の各町村間では町村ごとに公民館の活動推進体制やその活動内容にかなりの差異が認められた。こうした活動実績の違いから、住民の公民館に対する意識や期待感にも地域によりかなりの温度差があることも事実である。そこで各公民館に活動推進協議会を組織し活動の推進体制を整えるとともに、共通認識のもとに一体感のある公民館活動を推進できるよう、毎月主事会を開催し意見交換や情報交換を図り、協力しながら足並みのそろった活動が展開できるよう努力している。

こうした話し合いの中、今年度全公民館で協力して取り組むこととなったのが「発見!お宝プロジェクト」と「ふるさと探検隊」である。

2 事業の概要

(1) 「発見!お宝プロジェクト」の概要

地域にある「もの」「こと」「ひと」に関する情報を調査・収集・整理し、その情報を学校教育や生涯教育の中で活用するとともに、地域をもう一度見直すことでふるさとを再認識する。またこうした情報を外に発信することでこれからの観光事業や地域振興に役立てようとする事業である。

もの・・・ 地域にある優れた自然や城跡などの歴史的遺産

滝 景勝地 巨木 巨岩 山野草の群生 城跡 銀山遺跡 建造物など

こと・・・ 伝統的行事や地域の伝承・昔遊びなど

ひと・・・ いろいろな技術や知識を持っている人材

わら細工や竹細工の名人 手芸・遊びの達人 植物や歴史に詳しい人

① 具体的な取り組み

各公民館でいろいろな取り組みが行われているが、ここではそのうち次の3つの事例について紹介する。

ア 中野お宝マップの作成(中野公民館)

公民館活動推進協議会と高齢者の組織「親和会」の協力により、中野地域の「お宝」についての情報を収集し、それをお宝マップとして作成し、地域の住民に自分の住んでいる地域を再認識してもらおうというものである。3回の情報交換会を開催し「ふるさと中野お宝マップ」を完成させ、公民館ロビ



一に展示している。このマップを活用してこれから地域の子供たちとお宝めぐりをする予定である。

イ ジゲ自慢ふるさと自慢写真展(田所公民館)

各集落からジゲ自慢の写真を募集し公民館に展示している。また町内の滝や景勝地・山野草の群生地などふるさと自慢の写真も展示している。これにあわせて現地の視察も行った。



ウ 久喜・大林銀山跡の調査・整備(出羽公民館)

石見銀山の世界遺産登録により石見銀山に関心が高まっているが、邑南町にも石見銀山を構成する銀山のうち久喜・大林・岩屋の銀山が分布している。しかしこの事実が地元でもあまり知られていなかったことから、地域の人と協力しながら案内板や説明板の設置を進めている。また健康ウォーク大会の開催や「ふるさと講座」「ふるさと探検隊」などを通して銀山遺跡を良く知ってもらう活動を進めている。



(2) 「ふるさと探検隊」の概要

これまで町内の各公民館では小学校校区ごとに子供を対象とした事業を個別に行っていたが、これを今年度は「ふるさと探検隊」という名称に統一して実施することとなった。

公民館により事業内容は異なるものの、子供とその親を対象に地域を知り地域に誇りを持つ、地域の人との触れ合う場を作ろうということテーマとした活動である。

① 具体的な活動

小学校校区ごとに児童とその親を対象に各公民館でいろいろな取り組みが行われているが次の2例を紹介する。

ア 山菜取り(出羽公民館 田所公民館共催)

これまでは二つ山城跡やふれあい公園で開催してきたが、今年度は銀山遺跡のある久喜・大林地域で開催した。山菜に詳しい人の指導を受けながら皆で山菜を採り、そ



れをヘルス21(食生活改善推進員)の皆さんとともに調理して食べようという会である。蕨・ぜんまい・タラ・コシアブラなどのほか、春ラン・アケビの花・イワガラミなどこれまで知らなかった山菜も食べることができた。最後には久喜銀山で鉱石の採集も行い好評であった。

イ 高原の野菜の行方を追え(高原公民館 布施公民館共催)

地域で栽培された野菜が食卓に届くまでどのような経路をたどるのか実際に目で見て体験してみようという試みである。

前日は栽培農家に出かけてナス・トマト・スイートコーンなどの収穫と荷造り・出荷を体験し、当日は朝5時に起きて広島市場に行き、市場でのせりからスーパーの店頭で並べられるまでを見学した。野菜が食卓に届くまでに多くの人関わっていることや、地元の野菜が高い評価を受けていることを実感することができた。



(3) 瑞穂ふるさと講座(瑞穂地域公民館共催)

ふるさとを歴史・自然・文化・人物など多角的な面から見つめ直し、新たな魅力を探求しようとする講座である。年間5講ほど開催している講座であるが、ここではそのうち2講を紹介する。

① ふるさと人物伝

郷土を築くために汗を流した先人にもう一度光を当て、その功績や生き方から地域づくりを考えようという人気シリーズである。

今年は「妙好人とその風土」というテーマで、田の迫の磯七・高取の九兵衛・石橋寿閑をとりあげ、妙好人に関わる伝承やその風土について考えた。



② 出羽合戦の舞台を訪ねて 和田原地区は弘治3年(1557)毛利氏と尼子氏の合戦の舞台となった地域で11の山城が集中している地域である。城



跡について学んだ後、ウォーキングも兼ねて毛城・宇山城・赤城・白鹿城・別当城を巡検し、当時の歴史ロマンを体感した。

3 事業の成果

① 地域に対する関心が深まった

写真展などを見た人の中からは、「これも知らない」「あれも見たことがない」との声も聞かれ、ぜひ現地に行ってみたいとの声も出てきた。このため2回の町内視察を行ったところ107名の参加者があり盛会であった。また、今回収集した写真を邑南町の表玄関である「道の駅瑞穂」の職員研修に利用されるなど予想外の反響もあった。さらにはこうした情報を観光資源として活用しようとする試みも始まっている。具体的には「滝めぐりコース」「山城めぐりコース」「社寺めぐりコース」などのモデルを設定し都市に発信しようというものである。地域にあるものを見直し、資源として活用しようという機運が盛り上がりつつあることが最大の成果である。

② いろいろな達人・名人などの人材がリストアップされ、ふるさと学習や生涯学習の場で講師として活用できる体制が整った。

③ ふるさと探検隊などの活動を通して子供たちが地域のことを知り、地域の人との交流の場ももてた。

④ 活動がテレビ・新聞などで取り上げられたこともあり、公民館への認識が深まった。

4 今後の課題と取り組み

① 地域にはまだ多くの資源が埋もれている。さらなる資源の掘り起こしが必要である。特に「ひと」に関する情報が不足している。

② 公民館や地域により取り組みに温度差がある。全町的な活動が展開できるよう話し合いを進めていきたい。

③ 集めた情報をどのように活用するのかが大きな課題である。ふるさと学習などでの活用については、これまで以上に学校との連携・情報の共有化を図る必要がある。

④ 情報を地域づくりに生かしていくためには、より多くの人のネットワーク化が必要であり、そのための方策を検討していく必要がある

⑤ 観光などの資源として発信するためには、その内容・方法がこれからの検討課題である。